

令和2年度 郡市医師会学校保健担当理事協議会・ 学校医部会合同会議

と き 令和2年11月19日(木) 15:00～

ところ 山口県医師会6階会議室

[報告:常任理事 河村 一郎]

開会挨拶

河村会長 県内でも新型コロナウイルス感染症患者が増えている状況だが、学校に関しては、まだクラスターなどは発生していない。しかし、昨日の記者会見で日本医師会の中川会長が「大きなハンマーを振りかざさなければならない」と発言していたが、まさしくそのような時期となっている。

本日は県教育委員会からもご出席いただいている。忌憚のない意見を交わしていただくよう、よろしく願います。

協議

1. 学校における新型コロナウイルス感染症の対策について

令和2年度は一斉休校や、学校健診の実施期間延長などをはじめ、児童生徒への影響は大きく、現在も学校現場は新型コロナウイルス感染症への対応に追われている。

本会の取組みとしては、山口県教育委員会と協議のうえ、令和2年4月17日に「新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた児童生徒等の定期の健康診断実施に係る留意事項について」を发出

出席者

郡市担当理事

大島郡 野村 寿和
玖珂 川田 礼治
熊毛郡 竹ノ下由昌
吉南 田村 周
下関市 吉水 一郎(代理)
宇部市 川上 初美
山口市 神徳 済
萩市 藤原 真一
徳山 大城 研二
防府 村田 敦
下松 井上 保
岩国市 岩崎 淳
山陽小野田 砂川 新平
光市 山手 智夫
柳井 濱田 敬史(代理)
長門市 清水 達朗
美祢市 山本 一誠

学校医部会委員

副会長 谷村 聡
副会長 青柳 俊平
委員 田原 卓浩
委員 鮎川 浩志
委員 小篠 純一
委員 野口 哲彦
委員 伊藤 忍
委員 江本 智子
委員 池田 卓生

山口県教育庁学校安全・体育課 こども元気づくり班

教育調整監 平野 幸世
指導主事 西 美里

山口県医師会

会長 河村 康明
副会長常 今村 孝子
任理事 河村 一郎
常任理事 沖中 芳彦

した。内科健診の実施に関わる留意事項について県医師会と県教育委員会で作成し、山口県歯科医師会、日本眼科医会、日本耳鼻咽喉科学会学校保健委員会が出している留意事項もまとめて、各郡市医師会、市町教育委員会に通知した。なお、地域によって感染状況なども異なったため、実施時期等については郡市医師会と市町教育委員会、学校医と学校に判断をお願いする形とした。

続いて、山口県教育委員会が市町教育委員会を対象に健康診断実施時期の調査を行った結果を報告する（令和2年9月時点）。各種健診は、1学期に実施したところ、2学期に実施したところ、とさまざまであるが、内科検診は1学期に実施32%、1～2学期に実施26%、2学期に実施42%であった。心臓検診は約8割の市町で1学期中に実施されていた。

また、本会議出席者に新型コロナウイルスへの対応について回答いただいた結果をまとめた。各地域の対応や、実際の検診における工夫などもご回答いただいたので、参考にさせていただきたい（表1）。

最後に参考資料として、文部科学省作成の「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」、県教育委員会が令和2年4月に作成した「学校における新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン」を紹介する。なお、いずれもホームページよりダウンロード可能である。

○文部科学省 HP「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」

https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00029.html

○山口県 HP「学校における新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン」

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/press/202004/046098.html>

田原委員 新型コロナウイルス感染症に付随したいじめや虐待、自殺の増加についてチェックできる体制はあるか。

県教委 いじめ、虐待、自殺の増加などについては、担当課が毎年把握しており、それに対してスクールカウンセラーを中心としながら各学校で増加傾向に対応できるようにしている。県教委からも市町教委や県立学校に、その対応や国からのいじめ、差別を防ぎましょうというメッセージなどを伝えながら、注意喚起、指導を進めている。

河村 以前、新型コロナウイルス感染症に感染した生徒の学校名まで報道された例があったが、山口県ではどのように対応しているのか。

県教委 県内では、年度当初、下関市で感染があった際に学校名の発表があったが、それ以降は学校名を公表せず、年齢については何歳代、性別については希望があれば伏せる形で県が公表している。

宇部市医師会 学校で新型コロナウイルス感染があった際、保護者には一斉メールが届いたものの、当該学校の学校医への連絡がなかったことがあった。市中の人が知っていて医療関係者は知らない状況は、伝達の仕方としてまずいのではと感じた。

県教委 情報については、学校内の学校運営協議会、PTA等の関係者にも伝えるよう助言している。学校医への伝達も欠かさず、連携が進むようにと考えている。県立学校にもそういったことがあれば助言していきたい。

2. 令和2年度中国四国医師会連合学校保健担当理事連絡協議会について（報告）

令和2年8月23日にテレビ会議システムにて開催された本協議会には、本会から今村副会長と河村が出席した。議事の中では新型コロナウイルス感染症に関するものが主だったが、各県とも文部科学省のマニュアルなどを使いながら周知しているところが多かった（詳細は本会報 令和2年11月号776～771頁参照）。

3. 令和2年度中国地区学校保健・学校医大会について（報告）

本大会は、令和2年8月23日に山口市で開催

する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面開催として大会誌の発行をもって代えさせていただいた。

大会誌は、各県の研究発表と、特別講演につい

ては日本眼科医会常任理事の柏井真理子先生に「子どもたちの目を守ろう～視力の発達と低下について～」、日本医師会常任理事の渡辺弘司先生に「学校保健の現状と課題」と題してご執筆いた

<p>1. 学校健診の実施時期や実施方法、学校における新型コロナウイルス感染症への対応に関して、貴会や地域（市町教育委員会等）で検討された場合は、具体的な取組み等についてご教示ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校で、低・中・高学年に分けて実施。 ・生徒ごとに聴診器をアルコール消毒施行した。 ・感染予防のため消毒薬、手袋を各学校へ配付。 ・内科健診を行う際の注意点や希望（三密回避や感染防御など）を学校医が作成した。令和2年4月の入学式時期前後に、学校医として健診を担当する小中学校養護教諭に先述の書面を渡し、校長又は教頭及び養護教諭と実際の進め方と日程を打ち合わせた。可能な限り早い時期に内科健診を実施する方向とした。 ・各学校の養護教諭、校長等と事前に検討、各学校の現状に合わせて実施した。 ・内科では触診（聴診）を減らす。主に視診とした。 ・第2波がくる前に早期実施を教育委員会にお願いした。学校によっては7月に実施できた（内科健診）。
<p>2. 学校健診実施にあたって各学校で行われた新型コロナウイルス感染症への対策・工夫の実例があればご教示ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三密とならないような環境下で実施された。当初4～6月まではアルコール消毒液が学校側で用意しなければならず、代わりに手洗いのみとしている工夫があった。 ・密を避けるため、健診会場を広い場所へ変更したり、部屋に入る生徒数を制限した。生徒同士の間隔も広くとった。 ・健診時のレイアウトを事前にメールでやりとり ・医師会健診マニュアルに準じて実施した。（可能な範囲で） ・耳鼻科検診では、検診に必要な器具を人数分買い足してもらった。 ・全員マスク着用、換気の徹底、体育館など広い会場での実施。 ・入室する人数を制限（1～2人）。窓を開けて換気し、扇風機も併用。前もって問診を十分に行い、当日は会話しな。全員マスク着用指導。医師（眼科医）は手袋、指サック、マスク、フェイスシールド着用。消毒剤、ペーパータオルの準備。
<p>3. 学校健診をはじめとする新型コロナウイルス感染症対応において、困っていることや課題があればご教示ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に関して困っている学校が多い。運動会、文化祭、修学旅行については各学校の判断に任せている。 ・感染対策として必要な物品がすぐに学校に届かないことがあった。 ・健診時期が2学期になり、他の学校行事と重なった。 ・高齢者の多い地域であり、感染予防のため、感染症状のある患者の診察は時間分離で対応している。 ・小中学校、保育園には感冒症状で受診希望の場合は、事前に連絡するようお願いしているが、児童・園児よりも、教諭が事前連絡なしに受診されることがある。 ・感染症発生時における、生徒家族への対応説明。（例：本人ではなく、周囲で発生した時の説明等） ・学校で児童、生徒が感染者となったときにいじめの対象になる可能性があると考え。その対応など。 ・コロナによる休校期間の影響が全体的に肥満の児が増えた。
<p>4. そのほかご意見、ご要望について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度以降の健診について、実施時期や実施方法について不安がある。 ・学校現場での判断も多く、大変だった。（例えば子どもを休ませる場合の体温など） ・正しい（科学的な）指導を月1回程度すべき。 ・一度、担当している学校と相談の場を持ちたいと思う。 ・医師会、学校、行政が十分に対応できる組織の構築。 ・コロナ発生時の医師会（学校保健）としての統一した対策並びに管理、指導マニュアルの作成。 ・ステイホーム中ゲームばかりしていた児が多かった。「ゲーム障害」が気になる。
<p>○健診以外の学校における対応について(情報提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行は2学期に全校で実施。旅行先はすべて県内で、バスで移動。小学校は一泊したが、中学校は日帰り旅行を2日続けて実施した。 ・その他の行事も多くは縮小し、来場者も保護者のみに限定。授業参観も、学年やクラスで時間をずらして実施し、廊下からの見学とした。

表1 事前アンケート結果

だいた（詳細は本会報 令和3年1月号72～79頁参照）。

4. 第51回全国学校保健・学校医大会について (報告)

本大会は、令和2年11月14日に富山市の現地とWEBのハイブリットで開催された（詳細は本会報 令和3年1月号61～71頁参照）。

田原委員 HPVワクチンについて、山口県医師会としてのポスターを含めた啓発資料作成の進捗状況を教えていただきたい。

河村 リーフレット及びポスターを作成中であり、令和2年度中には県や医療機関、学校などに配付のうえ啓発に活用いただきたい。

江本委員 山口県産婦人科医会でもHPVワクチンの啓発とあわせて、HPV自体について、病気やウイルスがどんなものなのかということをご一般の方にも分かってもらえるような詳しいリーフレットを作成したばかりで、現在、県内の先生方を中心に配付を始めている。ワクチンを打つ前に病気のことを知っていただくことにご活用いただきたい。

5. 『学校医の手引き』改訂について

令和元年度の発行を予定していたが、作業が遅れており令和2年度に引き継いだ。また、令和2年の状況に鑑み、新型コロナウイルス感染症についての章を追加したいと考え、現在執筆いただいている最中である。令和2年度中には印刷して配付したい。

田原委員 発刊にあたっては、COVID-19に対する見識も入れた方がよいのではと考えるが、年度内の発刊を令和3年度に延期できるか。

谷村副部長 執筆者に原稿のアップデートに関する確認作業が必要。新型コロナウイルス感染症に特化した章を入れるかどうかという議論も必要かと思う。

河村 令和3年度中の発刊に延期する。

6. 「学校医活動記録手帳」の活用状況について

令和元年度の学校医活動記録手帳の活用状況を報告する。716枚配付し、303枚の提出があった。提出率42.3%。活動記録手帳は内科校医に担当校1校につき1冊、耳鼻科・眼科校医には1人1冊ずつ配付していたが、令和2年度から数校分を1枚にまとめて記入できる様式に変更しており、令和3年度も同様の様式で作成する予定である。

田原委員 手帳によって得られた情報の検討、評価についてご意見を伺いたい。

谷村副部長 この手帳は徳山医師会学校医部会で作った原案を、県医師会で認めていただいて県内の学校医に配ることになったものである。学校医活動のセルフチェックに活用することが目的であるため、手帳そのものでは、学校医の資質向上や学校の満足度に直結するものではないと個人的には理解している。

河村 今後、学校医部会で検討していくこととする。

7. 令和2年度山口県医師会学校医研修会・学校医部会総会・予防接種医研修会・学校心臓検診精密検査医療機関研修会について

令和2年12月6日に県総合保健会館2階多目的ホールで開催する。新型コロナウイルス感染症対策として、検温や健康チェックシートの提出、座席の間隔への配慮や換気をするのでぜひ受講いただきたい（今後、本会報に詳細な記事を掲載予定）。

8. その他

谷村副部長 新型コロナウイルス感染症によって新学期の開始が遅れることで、いじめが6～7月に多発していると聞く。その都度、学校現場に連絡するなどしているが、もう少しオープンな場での議論や情報提供をしていただきたい。山口県内の子どもをどのように守るかを県教委主導で考えていただきたい。